

HighLight

今月の
注目

1

きずなの町へ。ひとつの町へ。

鈴木敏夫町長の 新たなまちづくりへの決意

「町民に大変な不安と不満が充満している。正常な行政運営を行い、町をひとつにする」と公約に掲げ、当選を果たした鈴木敏夫町長。

「笑顔と活力にあふれ、心がふれあう感動のまちづくりを目指す」と話します。
新たなまちづくりへの決意をまとめました。

このたび新たに川根本町長に就任した鈴木敏夫でございます。これからの4年間、町が抱える多くの課題を解決するとともに、さらなる発展のために尽くしていきます。

町の現状とこれからの展望

町長に就任して1カ月以上が経過しましたが、町内のさまざまな面で問題が山積していることを痛感しています。主要産業である茶業は、需要が伸び悩む中で茶価が低下するなど大変厳しい状況にあります。商工業でも、長く続いた景気の低迷から抜け出そうと悪戦苦闘が続いています。また少子高齢化や過疎化により、町そのものの活力が失われるのではと危惧されています。このような状況を何とか打破していかなければなりません。

一方で、町にとっては好材料となる出来事も多くありました。8月に行われた第67回全国茶品評会では、本町が2年ぶりに産地賞を獲得し、茶産地としての力を証明しました。5月には本町も構成地域に含まれている「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産に認定され、川根茶の新たな付加価値としての活用が期待されます。また、9月には南アルプス国立公園とその周辺が、ユネスコエコパ

町民が積極的に参加し、
一人一人が、
川根本町を誇りに思う
まちづくり



ークの登録地として国内推薦される
ことが決定しました。これらの出来
事は、地域経済が好転する機会とな
りうると同時に、町民の皆さんにと
っても地域の魅力を再発見し、ふる
さとに対する誇りを築き上げるため
の一助となるものと考えています。
当然、こうした地域の特長を生かし
た施策を実施していくことが必要で
す。

「心がふれあう感動のまちづくり」 を目指します

私はこの4年間の任期を通して、
「心がふれあう感動のまちづくり」
を推進していきます。そのために、
特に次の3事項について積極的に進
めていきたいと考えています。まず
1つ目は「安心して住めるまちづく
り」です。自然災害に備えた防災対
策、人口減少・少子高齢化に対応
し、町民が健康で明るく過ごすため
の保健・医療・福祉・教育施策の充
実を図ります。2つ目は「農林業が
元気で、豊かな経験・自然を生かし
たまちづくり」です。農林業の振興
や農林業と商工観光業の連携による
地域活性化・6次産業化のほか、町
民全体の財産である歴史的資産や豊
富な自然資源を生かした施策を展開
します。3つ目は「交流とふれあい

のまちづくり」です。誘客対策の実
施による地域間交流の促進や人づく
り・魅力づくり・活力づくり活動へ
の支援を行っていききたいと考えてい
ます。

皆さんの声をお聞かせください

川根本町は、小さい町です。しか
し、これは何かを推し進めていくと
き小回りが利きやすい町だともいえ
るでしょう。また、町民の皆さんに
積極的に町政に参加していただくこ
とで、より良いまちづくりが推進で
きるものと信じています。そこで、
まず私自身が町民の皆さんの聞き手
になり、皆さんがそれぞれ抱いてい
る思いをお伺いしていきたいと考え
ています。そしてお聞かせいただい
た皆さんの声は、できる限り町政に
反映できるよう努めます。

町民の皆さんの笑顔と活力があふ
れ、一人一人がこの町のことを誇り
に思う。そんな「心がふれあう感動
のまちづくり」の実現に向け、尽力
していきます。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

「心がふれあう感動のまちづくり」

交流とふれあいのまちづくり

農林業が元気で、豊かな経験・
自然を生かしたまちづくり

安心して住めるまちづくり



▶座右の銘は「世のため人のため」と
笑顔で話す鈴木町長



◀初登庁で職員への訓示
「町民の声を行政に反映させ、笑顔をもらえ
るような仕事をしよう」と呼び掛けました。